

# GOOD CARE NURSE

## 第2号



秋の気配を感じられる今日この頃、職員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？  
 前回 GOOD CARE 新聞第1号として、「南9階病棟の創傷カンファレンス」を紹介させていただきました。皆様からの多くのご意見、いいね！を頂きましたので、そちらも一部掲載させていただきます。  
 さて、GOOD CARE 第2号は・・・？  
**「各病棟のここがいい」**をご紹介します！！



2020年10月発行

第2号は、医療連携総合センターの皆さんから

### 「〇〇病棟のここがいい！」

についてご意見を頂きましたのでご紹介します。

医療連携室は、地域連携部門・入退院支援部門・社会福祉部門・相談支援部門の4つの部門からなります。今回は入退院支援部門の看護師とMSWの方に、病棟との退院支援カンファレンスや退院調整で「ここがいい！」と感じていることを伺いました。



### ☆「退院調整がスムーズで賞」な病棟部門☆

#### ★北8階病棟

北8階は退院調整部門が介入する前から、調整が必要な患者さんの情報を伝えてくれるそうです。事前に情報を得ておくに依頼があった場合、迅速に対応できて、調整もスムーズにいくそうです。



病棟看護師の福本さんは、「入院の時に（整形病棟なので）退院後のADLを予測して、家の生活状況を確実に情報収集するようにしています。」また、医師とのコミュニケーションもとれていて、「パスから逸脱する場合にも速やかに転院調整などの相談が出来る」そうで、他部門との良好な連携がスムーズな退院調整に繋がっているようです。

#### ）南7階病棟

南7階病棟は、スタッフ間の連携が良く、依頼した内容などはその日の担当だけでなく次の担当にも引き継いでいたり、相談や報告しやすい。カンファレンスでは担当者の意見をみんなで聞く雰囲気があり意見交換しやすいとのことでした。

2年目看護師の梅垣さんは、「こんな時期でもあるので、入院時に患者さんだけでなくご家族にも退院後どうなっていてほしいか、心配なことはないかなど、入院時から退院後の生活を見据えての声掛けをおこなうよう心掛けています。」とのことでした。

### 拡大カンファレンスの風景

#### ★北10階★

北10階は退院調整に必要な看護サマリーがとにかく早いそうです。また、アセスメントもわかりやすく一緒に調整していると実感できるとのことでした。

北10階の吉森さんは、「入院時から退院先は家、施設、転院のどこを目指すのか、家族の希望も踏まえてアセスメントしています。」「先輩たちの声掛けのおかげで若いスタッフも入院したその日のうちにサマリーを書くように意識付けてきています。」とのこと、病棟全体で入院時から看護サマリイの記載が定着していました。



### ☆「welcome な雰囲気」な病棟部門☆

#### ）北6階病棟

北6階には「病棟に行った際、welcome な雰囲気で迎えてくれる。」「サマリー依頼時もチーム間で連携し、記載、承認、連絡まできちんとしてくれるので調整がスムーズ」とのご意見を頂きました。



3年目看護師の小川さんは、「糖尿病や腹膜透析の患者さんが退院後も安心して生活が送れるよう退院調整部門との情報交換を心掛けている」そうです。また、「病棟のスタッフは若いけど、協力し合っている。」ことを実感しているそうで、対外的にも自然とそうなっているようです。



#### ★南5階病棟★

南5階は、「一緒に調整していると実感できる。」「忙しいのに一緒に担当を探そうとしてくれる」「笑顔で挨拶してくれて、welcome な感じで行きやすい」そうです。



南5階の志手さんは、梅澤師長さんから「いつも穏やか」と推薦を受けました。志手さんは、「患者さん、同僚、後輩、他職種関係なく、笑顔で接する方がお互いに働きやすい職場になる」と考えて普段から笑顔で心掛けているそうです。病棟では、毎日カンファレンスを実施して、患者さんの情報を共有し、スムーズに退院調整が出来るように取り組んでいるそうです。



#### ★その他こんなご意見もありました★

◇ 認知症があり、徘徊のある患者さんに対し、自立が下がらないように病棟と一緒に歩いてくれたり髪をカットしてくれていた … 南6階病棟

### ～第1号のご意見・いいね！～



皮膚ケアのスキルアップだけでなく、ストマ患者さんの退院指導がどのように生かされているのか確認の継続があり、患者さんも安心だと思いました。



南9階の看護師間での創傷に対する関わり、皆で一つの症例について向かい合っている看護が素晴らしいと思います

この記事を読んでストマケアに対する意識が高まりました。



HCUでもストマを造設された患者さんが入室されることもあり、ストマケアをすることもあるので、よりよいケアをしようと改めて思いました。



他病棟の活動を知ることが出来て良かったです。カンファレンスの時間を積極的に作っていくことで看護の質の向上になり、自分たちの学びも深まるため取り入れたいなと思いました。

たくさんのご意見ありがとうございました。次回は12月頃に発行予定です。コメディックスで皆様からの意見をお聞かせください。皆さんからの自薦、他薦は問いません「いいね！」情報をお待ちしています。発行元：看護部定着活動委員会

